

したがって、各種の「相談」において、「お気軽にご相談ください。」というキャッチフレーズをよく目にしますが、「お気軽に」は、教育相談の場においてはそぐわないと思います。自分の中には「答え」に真剣に向き合うためには、「お気軽に」であってはならないのではないのでしょうか。



しかし、どんなに考え悩んでも、どうしても解決できない養育上の悩みやトラブルがあります。そのようなとき、「お気軽に」ではなく、ぜひ「ご遠慮なさらずに」ご相談をいただきたいと存じます。子どもの成長上の「問題」や「悩み」には、必ず効能のある処方箋はあります。けれども、不登校やいじめ、非行、集団不適應、適切な就学などについて一緒に悩み、考えることによって、必ずや子どもの成長と自立のための「何か」が見出せるものと信じております。

本年度も、「広報たてしな」及び「有線放送」を通して、ささやかな体験と、ささやかとは到底言えない反省に基づいた提言を致しますので、ご自分の心のフィルターで取捨選択され、ご自身の養育や教育実践などに多少なりとも生かしていただければ、幸いです。

ご意見やご要望、ご質問がございましたら、ぜひ立科町児童館までお寄せいただきたいと思います。

§ § § § § § § § § § § §

蓼科高校の体育館に、下の写真のような立派な扁額が、大切に掲げられてあります。伊藤博文内閣の大蔵大臣・通信大臣、渡辺国武（岡谷市出身）の揮毫による縦1m、横3・2mのこの大額面は、蓼科高校初代校長、五無齋・保科百助先生の卓越した見識と並々ならぬ尽力によって、現在に伝わる貴重な文化財です。

威風堂々とした大書を仰ぎ見ますと、百年余の時を超えて、保科百助先生の無垢なる教育的情熱がひしひしと伝わってくるのを感じます。

「立科教育」の象徴として、五無齋先生の教えとともに、後世に大事に伝え、残したい扁額です。

掲額の経緯は、三石勝五郎翁の詩「蓼科学校揮毫」に詳らかです。



蓼科高校体育館の扁額「蓼科学校」

#### 蓼科学校揮毫

五無齋がたずねた麻布の子爵邸  
見ればはつびで草履ばき  
「おれを知らぬか大馬鹿め」  
何だと書生が腕まくりや  
奥から出たる渡辺国武  
よく来てくれたと座に通す

五無齋の依頼は額にする  
「蓼科学校」の揮毫である  
忙しいところむりやりに  
書かせた大書の絹本を  
国へ送って旅に立つ  
五無齋亡きあとに講堂の

新築なつて額かがぐ  
祝賀の当日友人によつて  
彼の遺言は読まれたが  
「講堂のなき不自由さは  
雪隠のなき家にもひとし」と  
聞いて一同笑い出す

扁額を撮影した今冬2月14日は、歴史的な豪雪が降りしきっていましたが、体育館内では、生徒会長の指揮の下、一年生の朗々とした男声と美しく澄んだ女声が爽やかに響き合っていました。

何となし、五無齋先生が扁額の陰から嬉しそうちに、蓼高生の清々しい歌声に聴き入っておられるような気がしました。